

# 人は如何に生きるべきか（その7） （最近の凶悪事件）

財団法人 電子科学研究所 辻 本 忠\*

## 1. はじめに

医療施設で働くために来日したフィリピンの若い女性が「なぜ日本にこられましたか」というテレビ記者の質問に対して、「日本の治安が非常によいからです」と答えた。しかし、最近の日本は決して治安がよいとは思われない。現在の日本では無差別殺人が横行している。外国の人であっても巻き添えをくうこともありえる。警視庁の「犯罪統計」では最近の凶悪犯罪は減少している、しかし、統計の取り方の違いによるのかも知れないが、最近のテレビや報道ニュースではやたらと凶悪事件が多い。これはテレビや報道ニュースが詳細にくり返し報道するためかもしれない。

ごく最近の事件として、9月21日午後零時40分ごろ、千葉県東金市東上宿の東金南公園近くの道路脇で女兒(5)が衣服を着けずに放置されているのを近所の住民が発見、病院に搬送されたがまもなく死亡した。身につけていた着衣は倒れていた場所から100メートル近くでビニール袋に入れて置かれていた。この事件はいまだ犯人が捕まっていない。このような不可解な怪奇事件は今までは小説の世界であったが現実問題になってきた。このように最近の事件の様相は変わってきたように思う。

親が子供を殺す、子供が親を殺す、妻が夫を殺す、夫が妻を殺す、老人が連れ添えを殺す、全く関係のない人を無差別に殺す。

このような事件は理解出来ないが、事件に共感

する者も多いようである。この共感者が潜在者になり、一度事件が起こると、それを引き金として同じような事件が次から次へと連続して起こす傾向がある。ネットによる殺人予告者はこれら事件の兆候かもしれない。日本は何時からこのような治安の悪い国になったのであろうか。

今年になってから連続して起こった事件について考察してみる。

## 2. 尊属殺人事件

尊属事件は家庭内という密室内であるので正確な実態の把握はむづかしい。尊属殺人は死刑又は無期懲役に処せられる。

### (1) 父親が子供を殺す

若い親が子供のしつけとして殺す事件が多い。これは、親としての未熟さによるものであるが、経済的な問題も大きく影響している。このような事件は1月頃に多発している。

- ・ 1月2日 群馬県桐生市 父親(35)、うそをついた長男(10)にしつけとして熱湯をかける
- ・ 1月28日 川崎市 父親(39)、長男(16)を折檻死亡させる。
- ・ 1月28日 仙台市 父親(53)、妻(45)の首を絞め殺害、二女中学生(14)殺害、長男(21)と長女(22)に切り付ける。
- ・ 2月9日 新潟市 父親、17歳の長男の首を絞め意識不明にする。

\* 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町2-3-6

## (2) 子供を殺す母親

母親が子供を殺す事件は、今年は9月に集中している。家庭内環境の複雑さによるものが多いが、なかには男の影がちらつく場合もある。人間の子供は他の動物と異なり未完成で生まれてくる。それを一人前にするのが親の責任である。

- ・ 9月18日 福岡県西区、母親(35)、育児に悩み、子供(6)を公園で絞殺し死体を遺棄する。
- ・ 9月27日 静岡県磐田市で母親(22)が3歳の長女が排泄物をもらった事で腹をたて数十分間にわたって暴行して殺害する。
- ・ 9月29日 神奈川県横須賀市で母親(40)長男(11)を絞殺する。

## (3) 少年の親殺し

未成年者による親の殺害及び殺害未遂が4月及び8月に起きている。成績や生活態度を叱責され自我に芽生え始めた子供が凶行におよぶことが多い。

- ・ 2月29日 無職の長男(58)、父(83)の首を絞め、意識不明にする。
- ・ 4月9日 熊本市 高1の少年(15)、祖母(72)の首を刃物で刺す。
- ・ 4月20日 兵庫県三田市 無職の次男(35)、父(67)の脇腹を包丁で刺し、死亡させる。
- ・ 4月30日 新潟県十日町 19歳の少年、父親の腹などを刺す。
- ・ 5月22日 島根県津和野町 孫(23)が老夫婦を包丁で死亡させる。
- ・ 7月19日 埼玉県川口市のマンションで、中学3年生の長女が会社員の父親を殺傷する。
- ・ 8月7日 埼玉県 中学3年の長女、成績がさがったので、両親が嫌な気持ちになると思い、その前に両親を殺害する。
- ・ 9月1日 宮崎県大崎市、高2女生徒(16)、自分の事を理解してくれなかったと母親(47)の頭部などを切り付ける。

## (4) 妻の夫殺し

調査が不十分であつたかもしれないが、9月に1件のみであった。

妻の夫殺しには男の影がちらつくが、保険金などの金銭によるものが多いと思われる。

- ・ 9月1日 熊本県大津町、保険金で暮らしたいと思い、帰省中の夫を殺害。

## 3. 無差別殺人事件

最近の無差別殺人事件は「生きるのが嫌になった」といって無差別に人を殺し、自分は死に切れなかったたり、「人を困らせてやろう」という動機から全く関係のない人を殺害する。

無差別殺傷事件として思い浮かぶものは、大阪教育大学附属池田小学校の事件である。この事件は平成12年6月8日に何ら罪のない児童23人を殺傷、そのうち8人を殺害し、死刑を宣告された。その後は、しばらくこのような事件は発生していなかった。ところが最近になりこのような事件が頻発している。6月8日に秋葉原事件、7月22日に八王子駅ビル事件、7月28日JR平塚駅事件、9月13日秋祭りの会場にかま男乱入事件、10月1日、大阪ミナミの個室ビデオ店放火事件、等が短期間に起こっている。

秋葉原無差別殺傷事件は6月8日東京の秋葉原の歩行者天国で25歳の男が小型トラックで突入し、通行人5人をはねたのち、トラックを降りた男は通行人ら12人をナイフで切りつけた。トラックにはねられた5人のうち、3人が死亡し、2人が負傷、刺された12人のうち4人が死亡し、8人が負傷、合わせて死者7名、負傷者10人になっている。

八王子駅ビル事件、7月22日、東京八王子の駅ビルの書店、31歳の派遣社員が仕事が上手くいかず、むしゃくしゃしてアルバイトの店員の女子大生(22)を包丁で刺し、死亡させる。客の女性(21)にも重傷を負わせた。男は「誰でもよかった」と述べている。

JR平塚駅事件、7月28日 神奈川県平塚市、JR平塚駅でパート従業員の女性(34)が男性7人に刃物で切りつけ、6人に怪我を負わせる。

かま男秋祭りの会場に乱入事件、9月13日石川県白山市の神社の夜、秋祭りの会場に、祭りの関係者からかわれた42歳の男がかまを持って乱入し、1人死亡、6人に重軽傷を負わせた。

個室ビデオ店で放火し事件、10月1日大阪のミナミで個室ビデオ店で放火し、15名を死亡させた。逮捕された男(46)は職場の人間関係に不満があり、両親にも悩みを聞いてもらえず、「生きるのが嫌になった」と言っている。

#### 4. ミラーニューロン

ミラーニューロン (Mirror neuron) とは他人の行動を鏡に映したように自身が同じ行動をしているかのように自分の中に再現する細胞である。ミラーニューロンは単なる動きを真似する神経細胞ではない、気持ちや心理までも読み取っているのである。コンピュータと違うところは「人の心を読み取る」という働きをする事である。これにより他人の気持ちを思いやり、他人の言動を理解することが出来る。これが人間の本質である「他人とのコミュニケーション」をする社会的知性に顕れる。そして、他人の心を自分の心に鏡のように写し、自分の本性を知り、個性を磨きながら人間が形成されていく。

ミラーニューロンを直訳すれば鏡の神経細胞となるが、1つの神経細胞がある現象を引き起こすとは一般的に考えられない。これは、神経細胞のネットワーク (神経細胞群 (neuronal assembly)) 全体が、ある活動をするものと考えられる。ミラーニューロンは1996年にイタリアの神経生理学者ジアコーモ・リゾラッティ (Giacomo Rizzolatti) らによって、大脳の前頭葉で見つけられたもので、ここ10年の脳科学における最大の発見である。

このように非常に大切な神経細胞群 (プログラム) であるが、上記に述べた最近の事件がテレビやニュースで詳細に報道され、自分に共感するようなものであれば事件の行動をミラーニューロンで読み取り、事件の主人公になりきり同じ様なことを起こすものと思われる。子供達がよく行なう、テレビゲームの場合もその世界に入り込み、テレ

ビゲームの主人公になりきっている。最近の子供は「殺してやる」とか「死んでしまえ」という事をよく言う。そんな言葉を言うてはいけないと叱れば、「死んでも、また生き返るもん」とせいせいとしている。最近の事件はテレビゲームの影響が大きいと思われる。

このような事件は一度起こると次から次へと連鎖して起る傾向がある。これは、これらの事件に共感する人が大勢いる。そのため、一度このような事件が起れば、同様の事件が連続して起こるものと思われる。これらの事件に共感を与えるものがミラーニューロンの働きによるものと思われる。

#### 5. 犯罪と脳の働き

「人はなぜ生きるのか」これは、古くて新しいテーマである。しかし、動物は種族保存のために生きているのである。そこで人間の本能は食欲、性欲、集団形成欲となる。人間は生きるためには食べなければならない、食べるために闘争が起こる。食うか食われるかの世界である。食われないために、人は運命共同体としての群れを作った。そして、その群れをより強固なものにするために、群れを大きくしていった。人間は群れを作ることにより、安定した豊かな生活を行なう事が出来るようになった。群れの始まりは夫婦と思われる、そして家族が出来上がる。家族が集まって集落になり、国になり、国家になってきた。これからはグローバル化し、地球全体が一つの群れになろうとしている。群れが集団として行動するには群れの共通了解事項に従わなければならない。そこで群を統率する人が必要となる。家族の場合は主人の威厳でよかったが、村となると「村のおきて」や慣習に従うようになる。国になれば政治家が必要となる。群の数が多くなると質の変化を起こす。これを「規模の法則」という。家族より集落、国、国家と群れの集団が多くなると、群れの質すなわち群れの共通了解事項がかわってくる。夫婦の協力、家族の絆、国に対する忠実心、というように群れの共通了解事項が変容してくる。そのため、

夫婦の助け合い、家族の絆がだんだんと緩み、主体的に生きることが出来なく、社会の甘えの中で生きようになる。そのため、尊属殺人がおこるのではないだろうか。

人の脳は爬虫類の脳、哺乳類の脳、霊長類の脳の三重構造になっている。爬虫類の脳と哺乳類の脳を古脳、霊長類の脳を新脳に区分する事もある。

新脳は可塑性を有し、環境、社会へ適応するように脳のネットワークに変化が起こる(脳のプログラムが変わる)。古脳は生命維持と種族保存という基

本的生命活動に関するネットワーク(プログラム)が出来上がっている。そして、人は新脳と古脳のプログラムのバランスの上に成り立っている。新脳のネットワークは20歳あたりではほぼ完成し、50歳ぐらいまで続く。そのため、20歳から50歳の間は古脳と新脳のバランスがよいことに成る。しかし、最近の社会環境の変化が激しく、新脳の社会環境の適応が上手くいかずにバランスが崩れて現在のような事件が多発しているのではないだろうか。

## 新刊図書のご案内

### ◆最新放射線障害防止法令集(平成20年版)◆

定価 3,300円(税込み)

編著発行 財団法人原子力安全技術センター

放射線障害防止法令集編集委員会

平成20年10月1日改訂版発行(A5版、876頁)

#### 【概要】

本書は、平成17年6月1日に改正された「放射線障害防止法令(法律・施行令・施行規則・告示)」、それに関する法令、及び文部科学省発出の通知等について平成20年7月までの改正等を取り入れ掲載しています。この法令集は、上段に法律及び関係する施行令を、下段に関係する施行規則、府令、省令及び告示を記載し、初級者にも解りやすい構成となっています。放射線取扱主任者をはじめとする放射線業務従事者の方々の実務に、又、これから放射線取扱主任者を目指す方々にも必携の法令集です。

#### 【内容】

放射線障害防止法令(法律・政令・規則・告示)／様式・別表／通知等／関係法令

#### 【注文方法】

ホームページ又はFAXからの注文となります。一般書店では扱っておりません。

(財)原子力安全技術センターのホームページ<<http://www.nustec.or.jp/>>より申込みいただくか、申込書をFAX致しますので下記あて連絡ください。

#### <連絡先>

財団法人 原子力安全技術センター 技術展開部 出版・講習 Gr.

〒112-8604 東京都文京区白山5丁目1番3-101号 東京富山会館ビル4階

TEL 03-3814-5746 FAX 03-3814-7479

※ 発行元、ご注文先は、財団法人原子力安全技術センターです。